

初出場で日本一の快拳

新潟国体ライフル競技で
水口高校・綾戸さん、古武家さんが優勝

全国から精鋭のアスリートが集い競う日本最大の国民スポーツの祭典国民体育大会。

第64回国民体育大会「新潟国体」が開催され、ライフル競技で滋賀県代表として市内から出場の綾戸真美さん、古武家悠斗さん（ともに水口高校2年）が初出場ながら日本一の快拳を収めました。

綾戸さんは、少年女子ビームライフル立射40発の部に出場し、調子が上向く中で迎えた本番でもほぼ完璧な射撃での優勝でした。

校舎の廊下に並ぶ先輩の賞状を見て自分自身もこうした体験がしたいと思いついライフルを始めた綾戸さんは、

「表彰台が夢だったのに優勝なんて、でもみんなに祝福されてやっと実感しました。ライフルは1人でやる競技のように見えますが、みんなにいろんなアドバイスをもらいながら目標に向かう競技です。これからもみんなの期待に応えられるよう頑張っていきたいです。」と話しています。

少年男子10メートルエア・ライフル立射60発の部に出場された古武家さんは、自信を持って平常心で臨み

つかんだ栄冠でした。

高校で初めて出会ったライフル競技。なかなか思ったところに命中しない時は苦しいが、的の中心を撃ち10点を取った時の爽快感が最高という古武家さんは、

「本当に優勝したのか、これは夢じゃないのかと戸惑いましたが、表彰台に立つとうれしさがこみ上げてきました。これからもずっと続けて、国際大会に出場できるような力をつけたいです。」と話しています。

2人の次の目標は、まずは次回国体出場の切符を手に国体2連覇に挑むことです。これからのますますの活躍が期待されます。



▲表彰状を手に、古武家さんと綾戸さん

笑顔と元気の花咲く

FBC秋花壇コンクール「大賞」受賞

花づくりを通じて児童の自然を愛する心を育てる「フラワー・ブラボー・コンクール（FBC）」の秋花壇で、甲南中部小学校が、県内で最優秀となる「大賞」を受賞しました。

同校では、「花と笑顔がいっぱいの学校」を合い言葉に、全校で花を育てる取り組みを進めています。

花壇づくりは、園芸委員を中心に5月頃から行われ、中でも、花の命を最も意識するポット移植は、全校児童が行いました。

花壇のデザインは、6年生山崎伽梨さんが考案した「えがおの花」。「中部っ子のえがおと元気で大きな花を咲かせたい」との願いがこめられています。秋には、前庭にキラキラ輝くみんなの笑顔のような素敵な花々が咲き誇り、全校お花見給食をしてみんなで喜び合いました。

同校では他にも、地域を花いっぱいになりたいという願いをこめて、老人クラブの方々、親、子の三世代で、土作りや花の世話をしています。また保育園や幼稚園に花の苗を配ったり、一人暮らしのお年寄りの方に花をプレゼントする活動も行っています。

児童だけでなく、地域の方が芝生でくつろぎ、花を楽しむ親しみのある花壇にしていきたいと願う甲南中部小学校。春にはまた校庭が、きれいな花と笑顔で埋め尽くされることでしょう。



▲お年寄りに花を届ける児童

